

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会 平成28年2月20日発行

No.117



(早咲きの梅:撮影 平野かほり)

『十二月には沫雪降ると知らねかも 梅の花咲く含めらずして』

(しはずには あわゆきふると しらねかも うめのはなさく ふふめらずして)

紀女郎(きのいらつめ)が詠んだものです。

旧暦12月は現在の1月中旬頃。

今号の写真はさらに早咲き。

昨年の12月に案内所の梅が咲きました。

暖かい冬が以前にもあったようです。

小笠原美雪

平成28年 木曾谷新春狼煙揚げ

妻籠で始まって10年目、木曾谷全体で7年目を数えました。今年は26ヶ所283名が参加！

十二兼区 田口 義広

皆様方におかれましては、良き新年を迎えられた事とお喜び申し上げます。

当初揚げる場所を見晴らしの良い高台を予定していましたが、好天が続き周囲の乾燥がはげしく、水の便も悪かったので昨年同様、集会所広場で行いました。参加者12名と観光客2名で、都合14名です。ドラム缶の脇には少々のおつまみと少々のお酒もありました。

10:30点火、風も無く桧の枝の香りと共に真白い狼煙が空高く揚がりました。歓声が上がったのは言うまでもありません。熱にお酒も加わったので皆が赤い顔になっていました。

狼煙は昔の情報の伝達です。私も年男で72歳です。狼煙と同様にアンテナを高くし、色々な情報を集め、事件・事故、つまらない被害に遭わない様にしたいものです。



〈十二兼地区〉



〈妻籠城址〉

大桑村弓矢「地域を楽しくしよう」幹事 中田 悦夫

狼煙揚げへの参加は今回は6回目になりました。高齢化の中、地域の皆さん30名程の協力により準備実行ができました。

点火には事前に準備したドラム缶にて火種を作り、杉の葉の束を10時30分の時間に合わせ順次ドラム缶に投げ込んでもらい狼煙を揚げました。風もなく素晴らしい狼煙が揚がりました。対岸の殿地域の狼煙も眺めつつ、今年の郷土の活力を願いました。参加の皆さんとお神酒・お汁粉等新年の挨拶と健康を祈りながら、和やかな狼煙揚げとなりました。

狼煙の意義からリレー式にしている地域から学んで実行したいとも思っています。村内3か所をまわって見学してくれた人や地域のあちこちから「狼煙揚げを見たよ」との声をいただき、関心を寄せてもらえて手ごたえを感じました。



〈大桑村弓矢地区〉



〈上松町北野〉



〈塩尻市奈良井城址：少し風が強かったけどなんとか揚がりました。皆の気持ちが一つになりました。〉

故小笠原宏さんを偲ぶ会が開催されました

理事長 小林 俊彦

去年の10月31日に享年73歳でお亡くなりになりました、小笠原宏さんを偲ぶ会が1月16日に、南木曾町渡島の南木曾会館で開催されました。

先に、小笠原宏さんが妻籠宿保存に関与した主だった事項について略歴を述べます。

故小笠原宏さんは、妻籠宿が過疎になって、集落の前途が危ういとみられていた、昭和36年、一旦故郷を離れ東京方面で就職しておられました。

長野県明治百年記念事業妻籠宿保存工事が昭和43年(1968)に起工し、工事の進行に伴った2~3年後に、驚異的といわれた成果が現れ、それまで観光客の姿をみるのが稀であった妻籠宿に萬余の観光客が殺到するようになりました。小笠原家では、家を継がせるため昭和45年に宏さん呼び戻しました。Uターン第1号でした。同年、民宿槌屋を開業・従事しました。以下「妻籠を愛する会」に関係する事項を列記いたします。

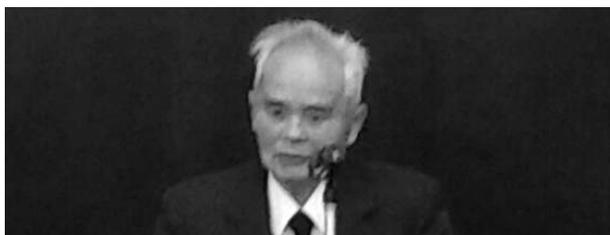
- ・昭和54年2月:妻籠を愛する会事務局長
- ・昭和58年1月:財団法人妻籠を愛する会の設立に尽力
- ・平成2年7月:(財)妻籠を愛する会常務理事
- ・平成12年7月:同理事長
- ・平成18年6月:同監事
- ・理事長退任後町教育委員、町公民館長を務められました。

この間昭和54年5月から平成21年の間、全国町並み保存連盟の事務局、会計、理事、副理事長を歴任し、27年の永い間妻籠宿の保存運動の中心で活躍されました。

偲ぶ会の当日は、財団の役職員全員が参加しました。町外から全国町並み保存連盟副理事長京極迪宏氏、同常任理事瀬戸達氏、同理事若林稔氏外2名、同理事石井健郎氏、連盟事務局山本玲子氏が参加されました。

町内から町長宮川正光氏、町教育長森洋司氏、町社協会長池田興衛氏、町公民館長近藤隆氏、及び町の関係機関の職員が参加されました。

小笠原宏さんが妻籠宿保存に尽力されました27年間の功績を偲び、感謝すると同時にご冥福をお祈りいたします。



遺族代表 小笠原 美雪

妻籠の皆さま、町の皆さま、保存連盟関係者の皆さまが日本各地からお集まりくださった事、明石高専の八木さま、台湾の丘先生からも追悼のお言葉を頂きました事、亡き父に代わり心より感謝申し上げます。そして、何よりもこの会を企画・準備して下さった皆様ありがとうございました。

生前、観光客の減少を心配して「妻籠はもうおしまいなのかなあ」とポツリつぶやいたことがありました。「おしまい」にしてしまうかどうかは残された私達に託された大切な課題だろうと思っています。変化する世の中で行く先を模索している妻籠にとっても、町にとっても大事な時期に何もできず逝ってしまった父の失礼をお詫びし、これから先、微力ながら共に行く先を探して歩いていくことを心に誓いつつ、お礼の言葉とさせていただきます。



〈平成25年度南木曾町公民館大会での小笠原さん〉



第48回文化文政風俗絵巻之行列

長野県木曾地方事務所商工観光建築課 小林 清二

行列には、毎年お誘いをいただいております。木曾地域に勤務する長野県職員も例年参加をさせていただいております。

昨年は、7月の南木曾町土砂災害、9月の御嶽山噴火災害により地域の観光に多大な影響が生じました。そのため、噴火災害の対応等で参加できなかった職員もおりました。今回募集を行ったところ、例年よりも希望者が多く、吉江所長をはじめ10名で参加させていただきました。職員は、宿役人・武士・駕籠かき・旅人とそれぞれの役に扮して、文化文政時代にタイムスリップしていました。私は残念ながら行列を外から見るとしていましたが、衣装を着た職員は、普段とは違い男性はとて凛々しく、女性はとて可憐らしい姿でした。

行列では、さまざまな衣装に身を包み、妻籠宿を練り歩く行列に、シャッターチャンスが満載でした。昼休みには、参加した女性2名も多くのカメラマンに囲まれていました。

衣装の着付けも丁寧に頂き参加した職員は、なかなかできない良い経験をすることができたといへん喜んでいました。

この行列は、昭和43年から続けられているということで毎年開催するのは、たいへんな苦労があると思います。しかし、町並みの保存活動やこうした行事の開催により、海外からの観光客が増加しているのだと思います。これは、御嶽山噴火の影響が続くこの地域にとって明るい光です。これからも、『妻籠を愛する会』や関係者の皆様には、木曾地域の観光誘客のけん引役であり続けていただきたいと思います。



尾張万歳研究会 立岩 和彦

2006年から毎年参加させていただいている尾張万歳の立岩です。

尾張万歳は名古屋市東区の長母寺を開いた無住国師が鎌倉時代に法華経に節をつけ村人に教えたことが始まりとされ、それが知多地方に伝わったものと言われています。

江戸時代には農閑期の副業として正月に各地に出かけ、門付け（家々をまわり、玄関先で祝福芸を行う）を行い、特に江戸は幕府に保護された三河万歳が出かけ、尾張万歳は大阪、伊勢、美濃、木曾路へ出かけたと聞いています。

そのような背景を先輩から聞いていたところで、毎年新嘗祭の日に妻籠宿で文化文政風俗絵巻之行列が行われていることを知ったため、参加を思い立ち、観光協会へご相談し参加させていただき、今に至っています。

初めて参加した日はそのカメラマンの多さにびっくり。その日はおそらく今まで生きてきて浴びた数を上回るシャッターを受けたのではないのでしょうか？

私たちを映した写真が入選し新聞に掲載されたり、次の年にカメラマンから入選したお礼を言っていたり、妻籠の方も顔見知りになったり、参加し始めた頃一緒に行列に参加したお子さんが毎年どんどん大きくなっていく様子を拝見することができたり、今では私にとって秋の木曾路に来なければ師走が来ない恒例行事となっています。

今後も参加させていただける機会があれば出かけたかと考えています。今後ともよろしく願います。



戸場 西尾 真一

縁があるのか、ここ数年、家族や子供達と行列に参加させていただいております。昨年度は「駕籠かき」役も体験させていただきました。この行列は今年で48回を迎えましたが、いままで一度も雨に降られたことがなく、参加される皆さんの日頃の行いが良いということなのでしょう。

朝晩の寒暖差が激しくなるこの頃、かなり冷え込み肌着の他に厚手の物を着込み参加した年もありましたが、本年は前日まで雨天で心配しましたが、当日は見事に雨も上がり、さほど寒さも感じることなく小2の娘と親子旅として中山道を旅することとなりました。

虚無僧や野菜売り等に扮した160名程の行列が宿場に入るとたくさんのカメラマンが待っていましたとばかりにシャッターを切っていきます。私は草鞋の結び方が悪くて足が痛いんだけど直すとカメラを構えている方に悪い直せないなあ、でもどうせ私は被写体じゃないから存外大丈夫じゃないかなあ等という思いにうつつをぬかしながら娘に引っ張られながら歩く始末。宿場を抜けて、大妻籠へ向かう神明の登りではもうだめ、限界と思いながら娘に引っ張ってもらいなんとか歩くことができました。

私の方はやっこのことでしたが、娘や息子が成人し、新たな家族で参加した時に、昔の思い出話をしながら同じ道のりを歩いてもらえたら、と考えるとちょっと泣けてきました。

最後に、いつも変わらないこの町並みを守る精神に感謝と、行列に携わった皆様、大変お疲れ様でした。



しめ縄作り講習会

妻籠分館主催のしめ縄講習会が加藤幸治さんを講師に招いて12月13日分館ホールで開催され、子連れのお母さん達からご年配の方まで20名ほどが我が家に飾るサイズに合わせて何本も製作に取り組みました。

折しも13日は正月を迎える準備を始める「正月事始め」ということでタイミングも良く、年越しや正月にまつわる話をしながら和気あいあいと皆で作業に励むと、お正月の支度が楽しくできたいです。

(広報部:松下)



〈しめ縄作りに励む参加者〉

文化財防火デー 2016.1.26

1月26日は文化財防火デーとして、妻籠宿でも50名近くの住民が集まり、木曾消防署南分署の方々により、放水やAEDの基礎知識、住宅用火災警報器の点検方法等を学びました。妻籠宿のAEDは観光案内所入口に設置してあります。

(広報部:原)



〈消火栓放水訓練〉



〈AED講習〉

木曾地域観光振興プロジェクト会議主催による第6回ガイドさんの井戸端会議が、12月16日に奈良井宿で行われました。妻籠からは7名、全体で50名の参加がありました。



宿 場 暦

- 11月2日：案内人の会学習会
 4日：木曾地域の将来を考えるワークショップ
 5日：衣装部着付練習
 6日：市民タイムス木曾版10周年記念式典
 12日：衣装部会（行列衣装準備）
 13日：行列幟旗立て
 17日：理事会、行列拡大部長会議、
 衣装部会（行列衣装運び出し）
 20日：行列木戸組み立て、統制委員会、
 広報「妻籠宿」116号発行
 23日：第48回文化文政風俗絵巻之行列、
 (株)サンライズプロ撮影
 24日：元気づくり支援金事例発表会（合庁）
 26日：広報部会
 27日：白川村世界遺産登録20周年記念式典
 30日：下嵯峨屋屋根返し作業
- 12月1日：南木曾町リニア中央新幹線対策協議会
 3日：「妻籠地区の砂防えん堤新設」地元説明会
 （分館）、長野朝日放送撮影
 4日：風景の語り部育成研修会（合庁）
 5日：評議員会、行列反省会
 7日：衣装部会（衣装整理）
 8日：木曾インバウンド検討会議（合庁）
 10日：地方創生「日本版DMO」講演会
 16日：第6回ガイドさんの井戸端会議
 （奈良井宿・7名参加）、観協役員会
 18日：平成28年度元気づくり支援金説明会、
 長野放送撮影
 21日：統制委員会
 22日：広報部会
 南木曾町リニア中央新幹線対策協議会
 28日：案内所仕事納
- 1月 4日：新春放談会（30名）、
 木曾谷狼煙揚げ（26か所・283名）
 5日：夜回り開始（～3月1日）
 13日：繭玉作り（観協女性部）
 16日：小笠原宏氏偲ぶ会
 18日：昼神温泉撮影
 19日：南木曾町リニア中央新幹線対策協議会
 20日：統制委員会
 21日：政府観光局撮影
 22日：広域季刊誌編集会議
 23日：旅スポ撮影
 25日：案内人の会新年会
 26日：文化財防火デー（48名参加）、広報部会
 27日：奈良井宿インバウンド会議（常務）

統制委員会審議事項

- 11月20日
 ・警戒標識の設置（県:中央P付近） 1件
 ・支障木伐採及び枝払い工事（県:大妻籠） 1件
 ・アスカーブ修繕（県:上在郷） 1件
 ・土間たたき修繕（教委:上・下嵯峨屋） 2件
 ・橋梁補修（町:久保洞） 1件
 ・群状択伐（関電:大妻籠～下り谷） 1件
 ・塀の修繕（愛会:下町） 1件
 ・竪樋・裏庇雨じまい修理（寺下） 1件
- 12月21日
 ・既設低圧戦増架・既設引込線張替工事
 （中電:恋野） 1件
 ・高圧配電線損傷に伴う張替工事
 （中電:大妻籠） 1件
 ・配電設備支障移設工事（中電:恋野） 1件
 ・水路修繕（町:恋野） 1件
 ・護岸修繕工事（県:大妻籠） 1件
 ・群状択伐（関電:渡島） 1件
- 1月20日
 ・雨樋修理（町:クリーンセンター） 1件
 ・枯損木伐採（森林管理署:下り谷） 1件
 ・電力保安用通信ケーブル移転（中電） 1件
 ・店舗併用住宅改修（大妻籠） 1件
 ・説明看板設置（教委:大妻籠） 1件



広報部員です。今年も取材に出かけます。
 ご協力よろしくお願いいたします。

発行:公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

下嵯峨屋屋根返し作業

2015年11月30日

南木曾町産業観光課 田中良樹

11月30日、妻籠宿の下嵯峨屋にて屋根返し作業に参加させていただきました。

今回は下嵯峨屋の街道から見て裏側の屋根から雨漏りがしていた状態だったため、妻籠地区の住民の方達と協力しながら作業を進めていきました。

まず、枕木や石、古い屋根板等はずしていくのですが、当日の朝は屋根に霜が降りており、すべらないように足元に注意しながらの作業となりました。

次に、屋根板を新しいものに敷きなおしていくのですが、板もただ並べればよいというものではなく、雨が漏れないように隙間を少しあけたり、きれいに被るように工夫したりなどのやり方があります。ベテランの方の指導のもと、作業は進められていきました。

重い石や大きな枕木などを屋根の上にあげたりする作業で大変でしたが、誰もけがをすることなく9時頃に始まり、15時過ぎには作業を終えることができました。皆さんお疲れ様でした。

私は今回で2度目となる屋根返し作業でしたが、文化財を活用してのこうした取り組みに参加させていただき、とても勉強になり、貴重な体験になりました。ありがとうございました。

また機会がありましたら、こうした取り組みに参加させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



5月26日の既屋根返しに続き、今年度2回目の屋根返し作業を行いました。環境保全委員会を中心に、妻籠観光協会、町観光係、町教育委員会の方々17名の協力により無事屋根返しことができました。